

(別 紙)

2026 年度事業計画

1 事業方針

令和6年産米の米価高騰では、生産者と消費者それぞれが望む価格や心理の乖離が顕在化した。また、高騰・品薄の一因としてインバウンド需要の増大による消費量の増加が明らかになった。

また、2025年農林業センサスの概数値にて、全国の農業経営体数は82万8千と、5年前に比べ23%となる24万7千経営体が減少した。

こうした状況下で日本の農業・農村を維持発展するには、農産物に対する消費者理解の醸成や、農業を志す者の増加、海外展開が欠かせない。

そのため、消費者との交流やインバウンドのさらなる取り込みに励む「農のふれあい交流経営者協会」は国内外へ日本農業・農村の魅力を発信するとともに、農産物にさらなる付加価値を高める経営を展開していかなければならない。

以上のことから、農のふれあい交流経営者協会は次のことに取り組むこととする。

2 事業計画

(1) 諸会議の開催

①通常総会

今年度の事業計画・収支予算等を協議・決定するため、総会を開催する

②役員会

事業方針及び重要事項について協議するため、役員会を開催する。

(2) 研究会の開催

優良経営の視察や会員の情報交換の促進を図るため、現地研究会やウェブ研究会を行う。

(3) 女性や青年後継者の交流促進

経営を担う者として、女性や青年後継者も含めて、広く会員相互の交流を促進する。

(4) 全国農業経営者研究大会等への参加

全国農業経営者協会等が主催する全国農業経営者研究大会をはじめとする各種企画に協力するとともに会員に参加を呼びかける。

(5) 情報活動の実施等

全国農業新聞等への記事掲載やホームページ・SNS等の活用により、都市農村交流をめぐる動きや会員の動向等について情報発信し、都市農村交流の発展に寄与する。また、農業の魅力や当協会の活動について、消費者に向けたPR活動を実施する。

(6) 要望等の農政活動

都市と農村交流の確立・社会的地位の向上のため、関係各方面との折衝、懇談会などを実施する。

(7) 会員への情報発信

上記活動で得た知見や農政情報などを共有するため、会員に対してメール等で定期的に情報発信を行う。